

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 6 月 9 日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子		
検証テーマ： 米朝首脳会談、オープニング、G7 サミット、両陛下が最後の東北被災地訪問 皇太子ご夫妻の銀婚式、【特集】新潟県知事選挙、		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米朝首脳会談 ・ オープニング ・ G7 サミット ・ 台風 ・ 両陛下が最後の東北被災地訪問 ・ 皇太子ご夫妻の銀婚式 ・ 沖縄県宮古島、アパートに男性遺体 ・ 大阪大東市フェンス破り線路に、70 歳死亡 ・ アメリカ、フロリダ州でワニに襲われ女性が死亡、日本人の可能性も ・ 東京、目黒区で五歳児虐待 ・ 東京目黒区、祖父母切りつけ ・ 東京赤坂、中華料理店で同僚に刺され死亡 ・ 東京都心も初の真夏日 ・ 【特集】新潟県知事選挙 ・ 【特集】シリア内戦 ・ スポーツ報道 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米朝首脳会談：結論→特に問題なし 米朝首脳会談開催予定のシンガポールにトランプ大統領と金正恩党委員長、2 人のそっくりさんが現れたこと、金党委員長の宿泊予定ホテルや会談開催予定地では警戒態勢が敷かれていること、首脳会談に向けて金党委員長が人民の生活向上を重視する姿勢を国内向けにアピールしていることなどが報じられた。このトピックに当てられた時間は 150 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ オープニング：結論→問題あり オープニングでは金平キャスターが「ええ、日米は常にとともにあり完全に一致している。日米首脳会談後に首相はそう言いました。本当にそうなのでしょうか、たしかに米朝首脳会談が中止と発表された際は世界で唯一支持すると発表し、今は会談の実現を讃えています。自らの立ち位置がない国を私達は独立国とは言いません。」と発言していた。この発言のシーンは 22 秒だった。 米朝首脳会談が中止と発表されればそれを支持し、一転して会談が復活し実現するようになるとそれも支持するという政権の対応を「自らの立ち位置がない」と金平キャスターは評しているが、米朝首脳会談が中止と実現どちらに転んでも対処できる立ち位置を日本が取っているのであれば、アメリカがどちらを選択しても歓迎する(否定はしない)というのは十分にありえる対応であろう。いずれにせよ、国際社会の中で日本がどういうポジシ 		

ヨニングをしているかという点についても言及・検討した上で今回の対応を「自らの立ち位置がない」と評するのであればよいが、わずか 22 秒の発言で「自らの立ち位置がない」と断ずるのはあまりに一方的であり、明らかに政治的に偏りのある結論ありきの発言であり、放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」という点に照らし合わせても問題のある発言だと言えるだろう。

・ G7 サミット：結論→特に問題なし

米朝首脳会談の直前に行われた今回の G7 サミットで安倍総理は『おそらく今世紀で最も重要な会談の一つにドナルドが挑む』と語って協力を呼びかけ、各国のリーダーはトランプ大統領を支え会談の成功を後押しすることで一致したこと、他方で、トランプ氏が次々と繰り出してきたアメリカの関税の引き上げの問題では議論が紛糾し G7 の結束に微妙な影を落としていることが報じられた。また、各国の首脳がデータを示しながらアメリカが関税を引き上げる理不尽さを主張したのに対しトランプ氏はあくまでもアメリカが不利な立場に置かれていると反発し、激論の末、最後の最後には『それなら全ての関税をゼロにしよう』といった過激な議論にまでヒートアップしたということが現地の報道の総合として伝えられた。

今回の G7 サミットについてナレーションが「経済政策での協調を目的にスタートし自由や民主主義といった基本的な価値の共有を大切にしてきた G7、仮に基本的な価値観にずれが出てきたというような事態になれば今後の国際政治に与える影響にも懸念がでてきかねません。」という評価をしていた。

このトピックに当てられた時間は 94 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ 両陛下が被災地訪問：結論→問題なし

全国植樹会に出席するため福島県を訪れている天皇皇后両陛下が復興公営住宅で暮らす人々と懇談されたことが報じられ、「復興住宅に来ていただいたということは本当に今までの苦勞が、一挙に吹っ飛んでいったような感じです、力が湧いて本当にありがたいことだと思います。」という被災者の声を取り上げられていた。このトピックに当てられた時間は 84 秒で、放送法上の問題は特に見られなかった。

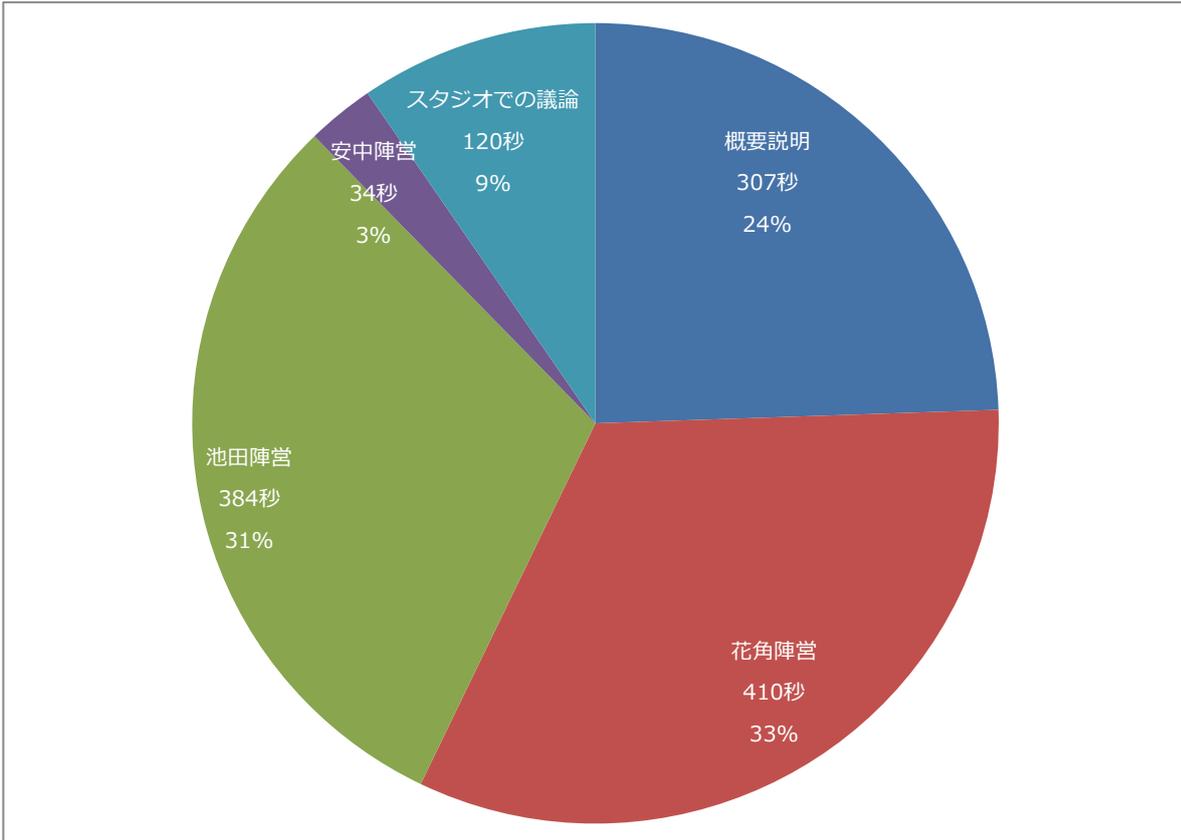
・ 皇太子ご夫妻の銀婚式：結論→特に問題なし

皇太子ご夫妻がお住まいの東宮御所で総理の代理の麻生副総理から銀婚式のお祝いを受けられたこと、お二人は結婚 25 年にあたっての心境を文書で寄せたこと、皇太子様が雅子様へ銀婚式にちなみ銀メダルを贈られたことが報じられた。また、皇太子ご夫妻が来年 5 月には新たに天皇皇后となることについて、皇太子様は「これまでの経験を糧にしつつ、お互い協力しながら、国民の幸せを願い、一つ一つの公務に取り組んでまいりたいと思います。」、雅子様は「これからの日本や世界の人々にとって何が大切になってくるのかということについて、皇太子殿下とご相談しながら考え、世の中のことに関わっていくことができればと思っております。」と抱負を語られたことが併せて伝えられた。このトピックに当てられた時間は 152 秒で、放送法上の問題は特に見られなかった。

・【特集】新潟県知事選挙：結論→問題あり

自民党公明党が推薦する運輸官僚出身で元新潟県副知事の花角英世氏、前県議で立憲民主党・国民民主党・共産党・自由党・社民党の野党五党が支持する池田千賀子氏、政党の支援を受けずに独自の選挙戦を行う安中聡氏の三者が立候補して選挙戦を繰り広げている新潟県知事選挙について 1255 秒の間、特集で取り上げられていた。このトピックでは主に経過説明、花角陣営、池田陣営、安中陣営それぞれの陣営の動向、スタジオでの議論とい

う 5 つのポイントがあった。それぞれのポイントに当てられた時間配分および比率は以下の通りだった。



県知事選挙について特に陣営を取り上げていない部分や住民の声を取り上げたシーンを概要説明として処理した。住民の声を取り上げる場面では以下に朱記した

【シーン 1】

ナレ「前回の選挙戦で大きな争点となっていたのが、」

金平茂紀「私の後ろに見えるのが新潟県の東京電力柏崎刈羽原発です。そこを望む砂浜に来ていますが今回の知事選でも、この原発の再稼働というのが装填の一つになっています、ただ二年前の知事選のときと比べますとですね、明確な対立軸になっていないような印象を受けます。」

ナレ「砂浜に釣りに来ていた新潟県民に訪ねてみた。」

金平茂紀「ここ、ほら、あそこに原発があるじゃないですか、あれはなんだろう、争点になってるのかなってないのか、私は東京からちょっと」

住民 A「でも、それはなってるんじゃないでしょうかね、そこがまあ一番の関心事だと思いますけど、どっちの人にも」

ナレ「原発がある柏崎の市民は」

金平茂紀「何を基準にして、あの、選びます加工細」

住民 B「原発じゃないですか」

金平茂紀「原発？ああ」

住民 B「やっぱり廃止でしょ、原発は」

金平茂紀「何を基準にして今回投票しますか？」

住民 C「もちろん経済とか雇用の問題」

金平茂紀「経済？雇用？ああ」

住民 C「そっちの問題」

【シーン 2】

膳場貴子「新潟県上越市に來ています、国政にも大きな影響を与えている今回の新潟県知事選挙、有権者は何を基準に投票するのでしょうか。」

住民 D「景気もあれだし、少子化、それから原発、いろいろあると思いますけど、まああの前向きな候補を選びたい。」

膳場貴子「何を基準に候補を選んでますか。」

住民 E「ちゃんと県民の生活をどれだけ、何というのかな、守るとのことについて真剣かっていうところだと思ってるんです。」

膳場貴子「まあ、森加計問題ですとか公文書の改竄とかありますけど、ああいう評価っていうのは今回の知事選で影響されますか、影響しますか。」

住民 F「いや、あんまり考えていません。」

膳場貴子「考えていないですか。」

住民 F「はい。」

住民 G「知事選に関しては特にそれは、うん、選びません。」

住民 H「野党がちょっとだらしがないところがあるから、与党はもっとだらしがないと思いますけど、やっぱりね、はっきり物を言えないってのが一番、なんか物が挟まっているような言い方ばかり逃げ口上ばかりでじゃあ誰を信用して良いのかっていうのが全く無いですよ。」

【シーン 3】

ナレ「東京電力柏崎刈羽原発。その再稼働について 6、7号機は去年 12 月、前提となる国の原子力規制委員会の審査に合格した。新しい知事には地元自治体として同意するかの判断が求められる見通しだ。もう一方の当事者である立地市町村のうち柏崎市長は。」

記者「今の県での原発についての論戦っていうのは市長にとっては満足できるものではないと。」

桜井雅浩(柏崎市長)「満足できるものではありませんし、納得できるものではありません。日本中の原子力発電所は、もう再稼働させるべきじゃないんだ、とお考えなのか、それともいや、一定程度、原子力は必要なんだ、とお考えになるのか、それさえもお聞かせいただいていないわけなので、候補者たるもの、お話しべきだと、それは義務だというふうに私は考えている。」

花角陣営を取り上げたシーンでは花角候補の経歴や「命と暮らしを守る必要な河川の改修、あるいはがけ崩れの防止、避難所の整備、そういった命と暮らしを守る公共事業をしっかりとやりましょう。」取り上げられるとともに以下に朱記したような花角候補へのインタビューの様子が取り上げられた。

ナレ「花角候補に今回の選挙戦について聞いた。」

金平茂紀「花角さんから見てですね、ずばり今回の知事選の最大の争点というのはなんですか。」

花角候補「最大の争点、僕はまさに新潟の将来を、どういう新潟を目指すのかをまさに県民の皆さんと一緒に考えるよい機会、そういうふうに思っています。」

金平茂紀「原発もやっぱり争点の一つですか？」

花角候補「大事な、新潟の将来を考える上での課題の一つだと思いますけど。」

金平茂紀「最大ではない？」

花角候補「いや、その最大とか比べるものじゃないと思いますね。」

また、花角陣営である自民党新潟県連については以下に朱記したシーンが取り上げられていた。

ナレ「今回の選挙の告示前、自民党の新潟県連の重鎮、三富佳一県議花角候補に釘を刺す場面も。」

三上佳一「あの、原発のことなんかあんまり強調しなくて良いですよ、サラッと行って。」

ナレ「こう話していた三富県議だが私達が改めて尋ねるところ答えた。」

金平茂紀「原発の問題というのはやっぱり表に掲げたほうがやっぱりいいというふうに思われます。」

三富県議「ただ、あの隠していると思われることは良くないかな、県民に対して、原発のことを何も出さなかったら、あれは原発という問題と真っ向から議論をしないで原発を隠して選挙戦を有利に展開しようとしている、と取られ方もあるわけ。」

金平茂紀「争点に原発というのを掲げるのはまあいいと、いいけど、得か損かということではどうですか、三富さんの立場から言うと、新潟県連の。」

三富県議「そりゃ片方は脱原発で、片方は黙っていればまあ不安を持っている県民意識からしたらあるよりは無いほうがいいってことになるんじゃないですか。」

なお、原発について花角候補は検証結果がでた後改めて知事選を行い県民に信を問うことも選択肢の一つに上げたことも伝えられた。

自民党の山本一太参議院議員の「花角候補は、特定の政党のために立候補したんじゃないありません。新潟県民のために出馬を決意したいわゆる県民党の候補者なんです。」という街頭演説や、公明党の山口那津男代表の「与野党対決とかって言うことでは必ずしもないと思います。国政の対立構造を持ち込むということではありません。」という会見でのコメント、かつて花角氏が運輸大臣秘書官として仕えた自民党の二階俊博幹事長の「なるべく選挙の邪魔をしないように我々はその合間合間ですから合流できるかどうかわかりません。」というコメントも取り上げられていた。

池田候補については「自民党丸抱えの選挙をやっている方が知事になったときに果たして国にノーって言えますか、言えないでしょう、言える訳がないと思います。私は原発再稼働を強力に推し進めているこの安倍政権の言いなりにはならない。」「中央政府とのパイプを自慢をしておる候補もおりますけれど、私はみなさんとのパイプをしっかりと強くしてそういう新潟県を作って参ります。」「原発が、なくてもこの新潟県の地域経済が成り立って行くように、新たな雇用、産業を生み出すための検討会議をぜひ、立ち上げさせていただきたいと思います。」や「相手候補を応援している二階幹事長が入られたというお話ですけれども、その政党が何を目指しているのか、そこに押されている候補が脱原発とはどういうことを指しているのかな、というふうに私は思いますおね、今、原発立地というのは非常に苦しんできているわけですよ、もう対立の歴史もあり、やめたいんだけどやめちゃったらどうやって生きていけるのかっていう道がひらけていないわけです。そういうことも乗り越えながら、やはり新エネルギー社会に向かっていけるというのが私は脱原発だというふうに捉えています。」という発言が取り上げられた他、原発ゼロを実現するプロセスについての「具板的な工程については、今みなさんにお話できるような、あの段階ではないと思っています。」という発言が取り上げられていた。また、池田候補の応援に入った野党国会議員の発言として、立憲民主党の枝野幸男代表の「上からの政治を変えないと、皆さんの私たちの暮らしはどんどん厳しくなっていく。東京、霞が関の勝ち組の方を向いて、そんな政治で本当に新潟の未来は、よくなるんでしょうか。」や国民民主党の大塚耕平共同代表の「新潟のことは池田さんに任せる、一番良く知っている、池田さんに任せるというこの重要な意義とともに、もう一つ、民主主義をないがしろにしている安倍さんに退任を求めることなんです。」という発言、共産党の小池晃書記局長の「江戸の敵は新潟で討つ、と」という発言が取り上げられた。

また池田陣営の動きとして、告示日前日に小泉元総理の講演を聞く池田氏として以下に朱記したシーンが取り上げられていた。

ナレ「一方の池田候補、県知事選の告示日前日、ある講演を聞きに来ていた。登壇したのは小泉元総理」

小泉元総理「別に私は選挙運動に来たわけじゃないんですよ。この日に合わせたのかっていうのをよくマスコミの方々が聞くですよ、そうじゃない、まさか米山知事がねえ、やめると思ってませんでしたから。」

ナレ「講演は以前から決まっていて、この日になったのは偶然だと強調する小泉元総理、1200人の聴衆の前で原発ゼロ社会の実現を訴えた。」

小泉元総理「今まで原発反対って言っていたのは、革新とかね、左翼だと思っていてなお、今違いますよ、私、保守ですから。自民党総裁やったんですから。」

ナレ「県知事選にはかかわらないとしつつも講演の後、池田候補にエールを送った。」

小泉元総理「女性活躍時代ですから、頑張って、」

池田候補「がんばります、ありがとうございます。」

ナレ「将来的な脱原発を大前提とする池田氏」

安中陣営については「政党の支援を受けずに独自の選挙戦を続ける」と紹介された上で、街頭演説での「新潟県の発展のための政策、そういったものを県知事としてしっかりと実行してまいりたい。」や「私はやはり原発は反対でありますし、これはやはり即時廃止するべきだと、そのように考えています。」といった発言が取り上げられた。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

日下部正樹「2人は実際にですね、新潟で取材してきたわけですけれども、膳場さんね争点がどうもなんかぼやけちゃっているような気がしたんですけれども。いかがですか。」

膳場貴子「そうですね、街で様々な方にお話伺うと、原発を装填として掲げる方は多かったんですけれども、ただ今回の選挙では候補三人全員が脱原発を掲げているので対立軸としては曖昧だなという感じがしました。で、安倍政権への評価を投票に込めるという方は半々くらいでした。」

日下部正樹「金平さんね、あと、東京にいと、どうしてもこの知事選をね、国政の代理選挙と位置づける向きがあるんですけれども、VTR見ると若干違うような気がしました。」

金平茂紀「そうですね、あの、代理戦争というよりも、やっぱりそれぞれの地方が抱えているね、多くの地方が抱えているね、人口減少だとか、地元経済の衰退だとか、そういうものがやっぱりもっと切実な課題だとなっているのが正直な印象ですね、それから原発再稼働についても膳場さんがおっしゃっていたように、やっぱり争点としては曖昧化されているかな、と。二年前の選挙と比べるとそうだなあ、っていう感想を持ったんですけれども、柏崎市長はね、これはやっぱり本質的な話なんできちんと主張をしてほしいというようなことを言ってまして狩れども、それを踏まえてですね、有権者はですね、争点の大事な一つとしてぜひ、投票の際に難しい判断をしてほしいというふうに思いますけどね。」

花角陣営と池田陣営を取り上げた時間では大きな差は見られなかったものの、もうひとりの候補、安中候補の取り上げ方は申し訳程度のものであった。大政党の支援を受けた花角・池田の両候補の取り上げ方に比べて、政党の支援を受けていないものの元五泉市議として地元での一定の実績のある安中候補の扱いはいささか軽すぎるとはいえないだろうか。また、各候補について報道で当てる枠に差を設けるのであれば、それなりの合理的な理由を視聴者に対しても説明しておくことが必要であろうが、与党の支援・野党の支持という2候補に対してどの政党の支援支持も受けずに就任する知事を目指す、という方針自体に価値や他の候補とは異なる心情があるという可能性もあり、そうした点を考慮すると、政党の支援を受けていないというだけでは他の候補に比べて著しく軽く扱うだけの十分な理由にはなっていないだろう。そういった点では放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」についてはやや問題のあるものだったと言える。また、原発については三候補の見解の違いについて

て掘り下げる事ができていなかったが、安中氏はそもそも主張がほとんど取り上げられなかったことに加え、三候補は「脱原発」という大きな方向性では一致しているものの、花角候補は検証結果がでた後改めて知事選を行い県民に信を問うことも選択肢の一つに上げ、池田候補は「具板的な工程については、今みなさんにお話できるような、あの段階ではないと思っています。」と発言していることから花角・池田両候補ともに脱原発を具体的にどのように進めていくのかという点については争点になるほど確たる結論には至っていないようだった。こうした点を考慮すると、脱原発についての議論が掘り下げられなかったのは仕方のないことであり、その点に関しては放送法第四条一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」というのを満たすことは非常に困難な状態であったと言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

金平キャスターの「ええ、日米は常にともにあり完全に一致している。日米首脳会談後に首相はそう言いました。本当にそうなのでしょうか、たしかに米朝首脳会談が中止と発表された際は世界で唯一支持すると発表し、今は会談の実現を讃えています。自らの立ち位置がない国を私達は独立国とは言いません。」という発言については聞いていてよく意味がわからなかった。米朝首脳会談を行うにせよ行わないにせよ日本にとっては支持できるのであれば、どちらかの選択に対して反対をする理由はなく、最終的にどちらが選択されても支持できるものであろう。どうも金平キャスターの発言からは「反米ナショナリズム」でも煽りたいのか、という印象を受けた。

・G7

ナレーションでの「経済政策での協調を目的にスタートし自由や民主主義といった基本的な価値の共有を大切にしてきたG7、仮に基本的な価値観にずれが出てきたというような事態になれば今後の国際政治に与える影響にも懸念がでてきかねません。」という評価であるが、そもそも関税引き上げはトランプ大統領の選挙公約の一つである。自由という価値観で考えると関税は程度問題になってくるが、民主主義という価値観で考えると有権者への公約を蔑ろにすることは望ましくないはずだが、今回の報道ではそうした点には言及されず、トランプ批判ありきの論調であったように感じられた。

・【特集】新潟県知事選挙

今回の放送の構成を見ていると、安中候補の扱いが非常に小さかったことから「自公という中央の政権党の擁立する花角候補」対「野党連合が擁立する地元の池田候補」という構図を見せたかったのでは、という印象を受けた。池田候補は花角候補を「自民党丸抱えの選挙をやっている方が知事になったときに果たして国にノーって言えますか、言えないでしょう、言える訳がないと思います。」と批判していたが、池田候補に対しても同様に「野党連合丸抱えの選挙をやっている方が知事になり、野党連合が国政で政権を奪取したときに、果たして国にノーと言えるのか」という批判が成り立つように思える。また、仮に争点が国政の代理戦争と脱原発の二点であるなら安中候補はなぜ立候補したのか、という点も疑問に残る。今回の県知事選挙の特集で安中候補の存在をほぼ黙殺してしまったことがかえって選挙の争点を見えにくくしたのではないだろうか。

また、池田氏が小泉元総理の講演に出席したシーンではブルーリボンバッジをつけていたのが印象的だった。

